

小学校6年 学級活動の時間 学習指導案

「小学校での携帯電話の適切な利用」

日 時：平成 年 月 日 ()

場 所：

授業者： 教諭 河野 圭一

1 題材名 「正しく使おう携帯電話」

2 題材について

(1) ねらいについて

携帯電話やインターネットの普及率は年々増加している。平成21年度熊本県公立学校いじめアンケート調査結果では、「インターネットに接続できる携帯電話やパソコンを持っている」と回答した児童が39.3%である。また、「ネット上のいじめを受けたことがある」と回答した児童が0.1%いる。(2010年6月、熊本県教育委員会) 学校非公式サイトについても、昨年度と比較して、書きこみをしたり、聞いたり、見たりしたことのある児童は増加している。このような実態から小学校の段階から携帯電話やインターネットの利点や欠点、使用する際の注意点などを十分に指導する必要があると考える。小学校学習指導要領でも、コンピュータの基本的操作や情報モラルを身に付けることが明記されている。また、学習指導要領解説「特別活動編」には、学級活動の内容として情報モラルに関する指導が挙げられている。

小学校高学年の時期は、様々な教科で調べ学習などを行い、インターネットを活用する機会が増える。また、県教委の調査では携帯電話の所持率も中学生になると倍増する。(同上調査) 行動範囲が広がり、携帯電話やインターネットを利用する機会が増加するこの時期に、携帯電話を持つ目的や正しい使い方、携帯電話やインターネットを使用する際の注意点などを学習する意義は大きいと考える。

(2) 児童の実態について

児童の実態について (男子〇〇人 女子〇〇人 計〇〇人) (調査実施は〇〇人)

携帯電話を持っている。	〇〇人
家庭でインターネットができる。	〇〇人
携帯電話でメールをしたことがある。	〇〇人
家で携帯電話を使う時のルールがある。	〇〇人
家でインターネットを使う時のルールがある。	〇〇人
「学校裏サイト」を知っている。	〇〇人
「掲示板」に書き込みをしたことがある。	〇〇人
インターネットや携帯電話を使う時のおもなルール。	
・使う時間を守る・使う場所を守る・保護者と一緒に使う・使う機能を決める 等	

- ・携帯電話を所持している児童は〇〇人（〇〇％）と大変高い。
- ・家庭でインターネットに接続できる家庭は〇〇％である。
- ・日々の生活では、男女関係なく遊ぶ姿が見られる。携帯電話を所持している児童同士ではメールのやり取りをしている。
- ・家庭で携帯電話を使う時のルールがある児童が多いが、実際はチェックが行われているわけではない。
- ・インターネットや携帯電話を使って掲示板に書き込みをした経験のある児童は一人である。
- ・「学校裏サイト」について知っている児童は一人である。
- ・掲示板や学校裏サイトに関する知識や経験がほとんどないため、現時点での的確な指導が必要かつ大変重要であると考ええる。

（３）資料について

今回の学習では「事例で学ぶネットモラル」（広島県教科用図書販売株式会社）の「この差は何なの？」を使用する。

同じサッカークラブに所属するあつしとゆうたは、二人とも携帯電話を持っている。あつしは、携帯電話でネットゲームをしたり、意味のないメールや電話をしたりと刹那的な楽しみのために携帯電話を使用している。一方ゆうたは、親への連絡・報告に利用したり、サッカー関連のサイトでフォーム改善に取り組んだりと目的を持った有効な使い方をしていく。その結果、あつしは携帯電話を親に取り上げられ、携帯電話を活用してサッカーの研究を進めたゆうただけがレギュラーメンバーに選ばれるという内容である。

ここでは、携帯電話を持つ目的と有効な使用法について学習する。携帯電話の所持率は、児童の年齢が高くなるにしたがって増加する。しかし、所持する理由が明確でなかったり、使用方法を誤ったために事件や事故に巻き込まれるケースも増加したりしている。よってこの時期に、携帯電話を持つ目的やよりよい使い方について学ぶことは大切だと考える。

また、携帯電話を持たせる目的や携帯電話の正しい使い方について保護者にも一緒に考えてもらうことで、今後の家庭内におけるルール作りの一助になると考える。

（４）指導にあたって

- ・導入部分では、携帯電話の利点について学習する。
- ・携帯電話を使ったことのない児童もいるため、教材の中から携帯電話の有効な使い方とそうでない使い方について児童に考えさせる。そこから、自分なりの携帯電話の使い方を考えさせる。
- ・教材の中だけでの話としてではなく、自分が本当にその場面に遭遇したらどうするという視点で考えさせる。
- ・携帯電話の使い方だけでなく、お金の使い方などの日常モラルとも関連させて考えさせる。
- ・携帯電話やインターネットを児童に与えるのは保護者である。しかし、携帯電話やインターネットを使う際の注意点等の保護者への啓発が不十分な実態がある。そこで、今回の授業では保護者に参加してもらい、児童と一緒に携帯電話やインターネット使用の際の注意点について考えてもらう。保護者には、児童と一緒に考えてもらうと同時に児童の実態を知り、今後の家庭でのルール作りに活用してもらうこともねらう。

(5) 情報モラル教育の視点から

- ア 本時は、「モデルカリキュラム」の目標「2. 法の理解と順守」、項目「c 3-2:『ルールや決まりを守る』』ということの社会的意味を知り、尊重する」との関連を重視して展開する。
- イ 本時は情報モラルの内容を教材化して授業を行う。携帯電話の便利なところや心配なところ、料金等について知り、正しく活用していこうとする姿勢を高める。
- ウ 児童が情報通信社会に意欲的に参画していくために、利点と問題点のバランスを考えて指導を行う。
- エ 情報通信社会でも、日常のモラルが大切であることを十分に指導する。
- オ 授業には、保護者も参加してもらおう。児童の実態を知らせ、携帯電話やインターネットを使う際の家庭のルール作りや有効な利用方法について考えを深めてもらう。

(6) 人権教育の視点

- ア 自分の考えを、自信を持って発表できるような支持的風土づくりに努める。
- イ 他の人の意見も尊重しながら、一緒に学習しようとする態度を育てる。
- ウ 物事を自分自身のことに置き換えて考え、自分を大切にすると同時に他の人を尊重する態度を養う。

3 指導・評価の計画

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点	評価項目 (方法)
1	1	携帯電話の利点や欠点を知り、正しい使い方を考える。	<ul style="list-style-type: none">・携帯電話の利点と欠点のバランスを考えて指導を行う。・携帯電話について日常の生活と重ねて考えさせ、使用するための適切な目的や方法を考えさせる。	A携帯電話の適切な使い方を自分の生活と重ね合わせて考えることができる。(シート・発言) B携帯電話の使い方を友達の意見を聞きながら考えることができる。(シート・発言) 支援：ゲームや漫画など日常にあるものと置き換えて考えさせえる。

4 本時の学習 (1 / 1 時間)

(1) 目標

携帯電話の便利なところや心配なところ、料金等について知り、正しく活用していこうとする態度を養う。

(2) 展開

過程	学習活動とおもな発問	児童の反応	指導上の留意点と評価	備考
導入 5	①携帯電話の利点について考える。 ○携帯電話があると便利だと思ったことがありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・お迎えに来てもらう時使いました。 ・メールが簡単にできて便利です。 ・天気予報を見たよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話の利点を十分におさえる。 ・自分で持っていない児童にも家族のこと等で考えさせる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 学習課題 携帯電話の正しい使い方について考えよう </div>				
展開 10	②教材の前半部分を見て問題点を考える。 ○あつし君とゆうた君の携帯電話の使い方を比べてみましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆうた君は必要な時だけ使っている。 ・あつし君は無駄に使っている。 ・ゆうた君は目的を持っている。 ・あつし君は計画性がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前半部分だけを見せ後半部分を想像させる。 ・ゲームやお金の使い方など、日常生活と重ねながら考えさせる。 	P C 電子 黒板
25	③携帯電話の正しい使い方を考える。 ○携帯電話は絶対必要ですか持っていないくても困りませんか。ゆうた君とあつし君の携帯電話の使い方を参考にしながら、保護者の方と班の友達と一緒に考えてみましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・親と連絡を取るために必要。 ・お金がたくさんかかるから必要ない。 ・いろいろな情報を得るために必要。 ・家庭科で勉強したように絶対に必要でないものは買わない方がいいからいらぬ。 ・いざという時に便利だから必要。 ・親に心配をかけないために必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要か必要でないかを考えさせることで、携帯電話所持の目的や正しい使用方法に迫らせる。 ・自分の考えの根拠を明確にさせる。 ・保護者も話し合いに参加してもらう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 評価 A携帯電話の使い方を自分の生活と重ねながら考えることができる。 B携帯電話の使い方を友達の意見を聞きながら考えることができる。 支援：ゲームや漫画など日常にあるものと置き換えて考えさせる。 </div>	
終 末 5	④携帯電話を使う時の注意点についてまとめる。 ○携帯電話を使う時は、目的や方法をよく考えて使うことが大切です。	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や方法をよく考えて使おう。 ・間違った使い方をすると自分や他の人を傷つけることもあるなあ。 ・使い方についてお家の人とルールを決めよう。 ・困ったことがあったら必ず大人に相談しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話はその他の道具と同じで、正しい使い方を考えることが大切であることを知らせる。 ・使い方を決めるのは自分自身であることをおさえる。 	

5 モデルカリキュラムの位置づけ

情報モラル	道徳、各教科・特別活動 他
a3：発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ。	道徳 礼儀は心のあらわれ「江戸しぐさ」 ・礼儀
b3：情報に関する自分や他者の権利を尊重する。	図工 「心広がる場面」 ・それぞれの作品を鑑賞しながら思いの違いやそのよさを認め合っている。
c3：情報社会でのルール・マナーを遵守できる。	道徳 生活を見直して「けいたい電話を持たせない」 ・節度ある生活態度 学級活動 「正しく使おう携帯電話」 ・携帯電話の便利なところや心配なところ、料金等について知り、正しく活用していこうとする態度を養う。〔本時〕
d3：情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる。	国語科 「自分の考えを発信しよう」 ・図書やインターネットや資料から情報を集め、自分の考えの裏付けや立場をはっきりさせて発表する。
e3：情報を正しく安全に利用することに努める。	
f3：安全や健康を害するような行動を抑制できる。	保健 病気の予防「生活行動がかかわって起こる病気の予防」 ・生活習慣病など行動様式が主な要因となって起こる病気の予防には、栄養の偏りのない食事や口腔の衛生など、望ましい生活習慣を身に付けることが必要であることを知る。また、喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となることを知る。
g3：生活の中で必要となる情報セキュリティの基本を知る。	
h3：情報セキュリティの確保のために、対策・対応がとれる。	
i3：情報社会の一員として、公共的な意識を持つ。	総合的な学習の時間 「インターネットで調べよう」 ・インターネットで集めた資料や画像の保存の仕方を身に付けるとともに、情報収集の際の注意事項（著作権等）を知る。 学級活動 「本当に大丈夫？その書きこみ」 ・情報通信社会の特性を知り、自分の行動がどのような影響を持つかを考えることで、よりよいネット社会を実現するための判断力を養う。

この差はなんなの？

_____年 _____組 _____番 名前_____

① あつし君とゆうた君の携帯電話の使い方を比べてみましょう。



あつし
どんなことに使いましたか？
◇メール機能◇
◇Web 閲覧機能◇
◇電話機能◇



ゆうた
どんなことに使いましたか？
◇メール機能◇
◇Web 閲覧機能◇
◇電話機能◇

② 携帯電話は絶対に必要ですか持っていないでも困らないですか、2人のちがいを参考にして考えてみましょう。

私は携帯電話は（ぜったいに必要である・持っていないでも困らない）と考える。
なぜなら、

③ 今日の学習を振り返って、携帯電話を自分ならどう使うか書きましょう。

①
②
③